

小学校体育科（運動領域）の指導に対する理解を深める

保健体育講座・糸岡 夕里

1. 「体育教材実践論」の概要

「体育教材実践論」の授業は、小学校教諭免許状を取得するための選択科目であり、中高保健体育の免許取得を希望している学生が、主に受講することが多い。しかし今年度は17名（中等保健体育3名、小学校サブコース14名）の受講生がおり、小学校サブコースの学生で、うち6名は小学校の免許は取得するものの、中高保健体育の免許は希望していない学生であった。

授業内容としては、まずは教材（運動）を実践し、その教材（運動）の楽しさを実感すること、そして、学習指導要領上の位置づけや、その教材（運動）を通して身に付けてほしい技能に対する理解を深めることができるよう一教材（運動）に対して、数回の授業を通して、理論と実践を往還させながら授業を展開した。

また、授業を展開するにあたっては、受講生自身が「主体的・対話的で深い学び」を実現していくことができるよう意識しながら指導すると共に、受講生自身がその指導法を理解することができるように努めた。

なお、今年度扱った教材（運動）は、シッティングハンドボール、シッティングタグラグビー、タグラグビー、フラッグフットボール、アルティメットであった。

【授業の目的】

体育授業における各種運動領域の教材の実践を通して、運動の系統性や子どもものつまずきに対する理解を深める。また教材の工夫や効果的・効率的な指導法について習得する。

【授業の到達目標】

- (1) 体育授業における各種運動領域の系統性について理解する。
- (2) 子どもものつまずきについて理解する。
- (3) 教材の工夫や効果的・効率的な指導法について習得する。

2. 授業評価

以下は、学生が「この授業を通して学んだこと」について、自由記述にて回答した結果である。回答者数は、1名が履修を途中でとりやめ、1名は提出されたファイルが開けずに15名となった。

最も回答が多かった内容は、「具体的なアドバイス」「肯定的な声かけ」（15名、100%）といった教師の声かけについてであり、全受講生がそのことを記述していた。このことは、授業中に実際にアドバイスにより、できるようになったことや、肯定的な声かけによりやる気がでたことなど、経験にもとづいた内容となっていた。学生の模擬授業の様子では、活動の指示のみに終始し、学習者の取り組み状況をふまえた声かけについては課題が残る場合が多いが、この授業を通して、その重要性を理解することができていたことが確認できた。

次に多かった内容は、「段階的な指導」（9名、60%）についてであった。このことは、その次に多かった「苦手な子への配慮」（7名、47%）、「教材への理解」（5名、33%）とも関連する内容であり、この授業の到達目標として挙げている3点が概ね達成できたことがうかがえた。

今後は、到達目標の3点目に挙げていた「教材の工夫や効果的・効率的な指導法について習得する」の実現状況について、今後の模擬授業や教育実習を通して、評価していくことが課題である。

回答内容	回答者数 (%)
具体的なアドバイス 肯定的な声かけ	15 (100)
段階的な指導	9 (60)
苦手な子への配慮 安全面への配慮	7 (47)
教材への理解	5 (33)
話し合い活動の位置づけ	4 (27)

